資料4

北海道新聞
1998年(平成10年)2月23日(月曜日)
朝A (10)

市住募集に徹夜組も

札幌 受け付けで一部混乱

札幌市営住宅の空き家の先着順申し込みが二十二日午前九時半から、市民会館(中央区北一西一)で行われた。所得の違いによる従来の一種、二種の住宅区分がなくなったため、人気を集め、前夜から数十人の徹夜組が出たうえ、申し込み開始直前に四百人以上が詰めかけた。市は整理券を配るなど、異例の対応をしたが、一部で混乱した。

今回の募集は、昨年十一月に行った本年度後期募集で、応募がなかった空き家に関し、先着順に受け付けるもので、もみじ台団地(厚別区)を中心に百六十一戸について募集した。

これに対し、二十二日午後八時すぎには、約三十人の応募者が市民会館の玄関に並んだ。中には二日前から並んだ人もいた。「寒すぎるので中に入れてほしい」などと訴えたため、市は風除室で待てるように対応した。

また、申し込み開始の約一時間半前に整理券を配り始めたが、徹夜で並んだ人の中には整理券をもらっていなかった人もいて、職員と受け付けの順番をめぐって、もめる場面もあり、混乱した。

二十二日午後一時ごろから並んでいたという女性(七〇)は「どうしても市営住宅に入らなくてはいけなかったため、覚悟をして服を七枚着てきたが、とにかく寒い。トイレがないのが一番つらく、屋内で待つことができるようにしてほしかった」と話す。

市は今回の事態について「予想していなかった。徹夜の人たちが多数出れば、市民会館の会議室を借りるなりして対応しなくてはいけない。今後、抽せんをするなど、混乱のない方法を検討したい」(住宅管理課)としている。

市営住宅の先着順の応募に詰めかけた市民